

令和5年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営報告

自己評価基準： 【A】十分に達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

令和5年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営報告	
今年度の教育活動への取組と重点目標	自 己 評 価
【学校経営】 (1) 分掌業務において、マネジメントサイクル(P D C A)を活用した課題抽出・改善を図り、合理的かつ効率的・効果的な学校運営を行う。 (2) 企画調整会議の決定事項の確実な周知と、分掌間の連携、年次間での情報共有等を徹底する。 (3) 一人1台端末の利活用、総合学科・キャリア教育に関する理解等における校内研修や、分掌業務におけるO J Tにより、教職員のスキルアップを図る。 (4) 会議の運営の工夫、保存文書の共有化、計画的な業務遂行等により、業務の効率化を図る。 (5) 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進するため、在校等時間の縮減、計画的な年休取得を目標とする。	●教職員の協働体制の確立【B】 (1) 分掌組織の改編と併せて、令和5年度の業務について、企画調整会議において課題改善を図り、学校運営の効率化を推進できた。 (2) 企画調整会議での決定事項は、全職員に周知できたが、一部分掌の連絡・調整が滞り情報共有が不十分であった。 (3) 一人1台端末の利活用研修及び校務支援システム等の校内研修を4回以上実施し、教員のスキルアップにつなげた。 (4) 会議日程の調整により回数を縮減した。次年度、D X化による会議進行や文書保存等、更なる業務効率化を検討する。 (5) 在校等時間の縮減を目指し、産業医面接等を行い、月80時間超過者数は減少した。年間15日以上の子休取得者は、34 / 56人であり、全教職員の平均取得率は15.6日となり目標を概ね達成した。

【教科指導】 (1) 教科会を活性化し、組織的な授業力向上と観点別評価の共通理解を図る。生徒の個別最適な教授法を追求し、確実な基礎学力の定着と進学指導の充実を図る。 (2) 学力スタンダードや外部模試に基づく教科指導の検証や改善、生徒の授業評価による、指導と評価の一体化を図る。 (3) 教員相互の授業観察による学び、研究授業での若手育成、スマート・スクール端末を活用した授業実践、授業での対話的・探究的な活動の充実、学習の成果発表等、教員の授業力向上を図る。 (4) 成績改善対策の補習及び大学受験指導に特化した講習等を、教科担当と年次担任が連携して組織的に実施する。 (5) 「学校 2020 レガシー」の「豊かな国際感覚の育成」に基づき、国際理解教育・海外学校間交流等の推進や英語力向上(資格検定等)の取組等を通して、グローバル人材の育成を図る。 (6) 学校図書館と教科等が連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動等での学校図書館の利活用を図る。	● 学力向上の取組の推進【B】 (1) 教科会で観点別評価について、共通理解のもと実施できている。生徒個別の指導法や考查結果の分析、進学指導等については、教員個々の対応となった。 (2) 外部模試の検証や生徒の授業評価による教員の授業改善の分析は、教員個々の対応となった。 (3) 年 3 回以上の相互授業観察、若手教員研究授業、スマスク端末利活用の授業実践、校内研修年 4 回以上の実施、探究的な活動及び各種成果発表会は、概ね実施できた。 (4) 夏季休業中に 3 年次生対象の校内予備校を 5 日間実施した。進学に係る推薦面接指導等は全教員参加により実施できた。 (5) 多文化共生海外派遣研修への参加、英語スピーキングコンテスト出場、海外とのオンライン交流を実施した。次年度に向けグローバル教育推進委員会を立ち上げ、海外学校間交流推進校への準備を進める。 (6) 対話的な授業やアクティブラーニング推進のため、図書館の利活用を促し、一部ラーニングコモンズを導入した。
--	--

【生活指導】 (1) 「都立高校生活指導指針」に基づく指導により、挨拶の励行、身だしなみ、遅刻等を重点的指導する。 (2) 全教員が授業規律を徹底し、教室環境の整美、施設・設備の安全確認を適切に行い、学習環境の維持・向上に努める。 (3) セーフティ教室（交通安全、防災、SNS、薬物乱用防止、性教育等）を通して、問題行動等の未然防止に向けた指導を計画的に行う。 (4) HR活動や学校行事を通して、人間関係の構築、思考力・判断力、コミュニケーション能力の育成を図り、振り返りの機会を設定し自己理解を深めさせる支援を行う。 (5) 体罰及びいじめの根絶、服務事故防止に、組織的に対応する。	● 規範意識の醸成【B】 (1) 挨拶の励行や身だしなみ指導は、生活指導部中心に実施した。遅刻数が大幅に増大となり、次年度の課題である。 (2) 教科内での授業規律は守られているが、教室環境整備は、教室によって指導の違いが見受けられ改善を要する。 (3) セーフティ教室（交通安全、防災、SNS、薬物乱用防止）を実施し、未然防止に向けた効果はあった。 (4) HR活動や学校行事を通して、人間関係の構築、コミュニケーション能力の育成に効果があった。振り返り活動により、自己理解を図った。 (5) 教育相談委員会を年28回開催し、いじめ防止・体罰等、組織的な対応ができた。
---	--

【進路指導・キャリア教育】 (1) 上級学校への進学対策として、各種ガイダンス、補習・講習、面接・論文指導等について、各年次が連携し進路指導部を中心とした組織的な指導体制の構築、充実を図る。 (2) 全教員による個別指導を行い、進路実現を支援する相談体制を充実させる。 (3) 「産業社会と人間」、「マイプロジェクトⅠ・Ⅱ」による計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒の自己理解を深めるとともに、社会に必要な言語能力と発信力の向上を図る。 (4) 進路指導部からの情報発信力の向上、キャリア・カウンセラー面接等を通して、相談体制を充実させるとともに、進路未決定者に対する指導を徹底する。 (5) 生徒に有効な資格取得について、各教科で検討し組織的に受験を推奨する。	● 進路実現への支援【B】 (1) 進路指導部及び各年次による各種ガイダンス、論文指導等がダブルスタンダードになることがあり、進路指導部を中心とした運営体制の見直しが必要である。 (2) 学校型推薦・総合型推薦に係る面接指導を、進路指導部中心に全教員の協力のもと実施できた。 (3) 「産社」は、スマスク端末を活用し、ポートフォリオや課題提出方法など改善した。「マイプロⅠ・Ⅱ」は、計画的な取組に課題があったが、代表者による成果発表会は充実した発表となった。 (4) 進路指導部からの情報発信（受験結果報告、CC 面接状況等）に課題があり、全教員の周知には至っていない。3 年次の指導により、全員進路決定を果たした。 (5) 英検準 2 級以上 43 名、P 検 3 級以上 57 名について、大幅に合格者が増大した。
【特別活動】 (1) 新型コロナ感染症の影響で、これまで縮小や制限のあった学校行事について、ねらいの明確化と質的向上を図り、再構築する。 (2) 部活動生徒の加入率や活動実績の向上に努めるとともに、部活動ガイドラインを遵守した合理的で効率的・効果的な活動を行う。 (3) 生徒のボランティア活動や、地域貢献活動について推奨する。	● 生徒主体の活動の推進【A】 (1) 体育祭・若葉祭、卒業式等、コロナ禍前の状況に戻し、新たな思考で再構築できた。 (2) 部活動加入率が 73.3%と、昨年並みだった。最終下校時刻等遵守した効率的な活動ができた。 (3) 生徒会・部活動が連携して、地域イベントに参加し、地域貢献に成果があった。

【安全・健康指導】 (1) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、保健・体育授業等を通して、運動の重要性を理解させ、楽しみながら運動やスポーツに参画し、体力向上を目指す。 (2) スクールカウンセラーや都立版エリアネットワークと連携した教育相談機能の充実を図り、特別な支援が必要な生徒に対する組織的な対応を図る。 (3) コンディショニング・レポートを活用し、生徒の体調や気持ちの変化を把握するとともに、適切に教育相談等につなげられるよう対応する。 (4) 地域と連携した避難訓練、防災教育等を通じて、実践的な防災意識の涵養を図る。	● 自他の生命を尊重する態度の育成【B】 (1) 体育祭や球技大会を通して、楽しみながら運動やスポーツに参画できた。体力テストの結果から、体力の維持・向上が課題である。 (2) 都立版エリアネットワークと連携し、支援の必要な生徒の校内研修を実施した。教育相談委員会を年間 28 回開催し、生徒の個別課題について、組織的に対応できた。 (3) コンテンツを活用した生徒の健康情報は、継続的な取組とはならなかったが、いじめ防止・体罰アンケート等、適切な対応ができた。 (4) 稲城市合同防災訓練に生徒約 30 名が参加し、地域と連携した活動ができた。
【募集・広報活動】 (1) 稲城市立中学校及び稲城市教育委員会との連携や出前授業、塾訪問等を積極的に実施し、中学生・保護者に対して、本校の魅力発信、総合学科の理解に努める。 (2) 学校ホームページ、公式ツイッターの適宜更新、学校説明会等における情報発信の充実を図る。 (3) 都の施策を活用した紹介動画を作成し、本校ホームページや YouTube 等で公開する。 (4) 都民向け公開講座を実施し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	● 広報活動の充実と入試倍率の向上【A】 (1) 近隣中学校への出前授業や進路ガイダンス、学習塾訪問に出向き、総合学科の P R を組織的に実施できた。 (2) 学校 H P・X の配信を年間約 900 回以上更新し、保護者向け情報配信や入試倍率に一定程度、効果が見られた。 (3) 授業で生徒作成の P R 動画を、学校説明会等で公開できた。 (4) 「初心者向けの陶芸教室」を開催し、地域住民から高い評価を得た。

【経営企画室】 (1) 行政系職員と教員の情報共有を図り、行政系職員が教育活動への積極的な参画を推進する。 (2) 施設・設備の造改修要望に向けた対応策を、TEPRO と連携し早期の改善に努める。 (3) 経営企画室と管理職・分掌等が協働して、本校の課題の解決を目指す予算編成と執行を実現する。今年度の予算執行状況を踏まえ、次年度予算編成指針を 10 月中に策定する。 (4) デジタル技術を活用した教育の推進に向け、個別最適な学習環境の整備（ラーニング・コモンズ設置等）を検討する。	● 効率的・計画的な予算執行【A】 (1) 教育系・行政系の教職員が、相互の連携を密にし、教育活動が円滑に遂行できた。 (2) 施設の造改修等、素早い対応で不具合を解消できた。 (3) 補正予算の編成について、無駄のない計画的な執行により、課題解決を図った。補正予算の次年度対応や新年度予算編成について、推進予算との照らし合わせ、執行計画を策定した。 (4) 図書館・講義室の環境整備（対話的な活動推進のための環境作り）や、特別教室に大型モニターを配備するなど、D X 化の推進ができた。
--	--

	数値目標	数値目標	評価
学校経営	① 校内研修の実施【年 3 回以上】 ② 在校等時間の縮減【一月 80 時間未満】 年間年休取得【15 日以上】	① 年間 4 回以上実施 ② 1 月 80 h 超過 6.3% 年休 15 日取得 34 人	B
教科指導	① 相互授業観察、研究授業参加【年 3 回以上】 ② 生徒の授業満足度【80% 以上】	① 概ね良好 ② 授業満足度 80.0%	A
生活指導	① 体罰、いじめ、重大事故報告【0 件】 ② 遅刻回数【年間延べ 2500 回以下、3 %未満】	① 5 件 ② 5238 回	C
進路指導 キャリア	① 進路決定率(進学浪人含む)【100%】 ② 進路決定先満足度【80% 以上】	① 100% 達成 ② 81.0%	A
特別活動	① 部活動加入率【75% 以上】 ② 東京都統一体力テスト 【東京都平均値以上】	① 73.3% ② 全年次、都平均以下	C
募集対策	① (1)更新回数 HP【350 回】・Twitter【150 回】 (2)中学校訪問・出前授業【20 回】 (3)塾訪問【50 校】 (4)学校説明会等の参加者数【延 2000 人以上】 ② 推薦倍率【2.2 倍以上】 一般入試倍率【1.3 倍以上】	① (1) 更新回数 912 回 (2) 出前授業 16 回 (3) 塾訪問 106 校 (4) 来校者 2891 人 ② 推薦倍率 1.88 倍 一般入試 1.25 倍	A
経営企画室	① センター執行率【60% 以上】 ② 令和 6 年度予算編成指針策定【10 月中】	① 48.2% ② 10 月策定、11/1 決定	B